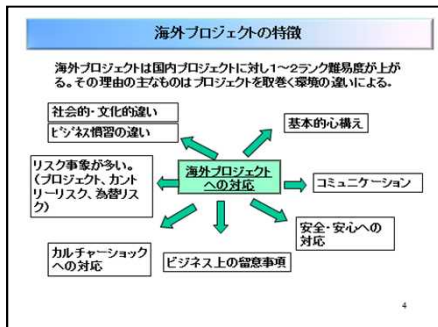


(参考)講義サンプルPPT(講義と討議主要項目)

1.海外プロジェクトの特徴



2.基本的な心掛け

- 基本的な心構え**
- ①対象国の社会、経済、文化そして赴任先地理等を勉強しておく。
(参考書籍 地球の歩き方:ダイヤモンド・ビックス出版)
 - ②日本は治安の優れた国、海外は必ずしもそうではない。海外安全のための基礎知識を持つ(参考 海外安全虎の巻:外務省)
 - ③ビザ、パスポートの所持は当然であるが短期の出張でも旅行保険そして長期の場合は企業の社内規定を見て対応しておく。
 - ④一年以上の長期の駐在では所得税や市民税への対応をしておく。
(二重課税防止法により、日本の税金納入はなくなる)
- 5

3.社会的・文化的ビジネス習慣の違い

社会的・文化的・ビジネス習慣の違い

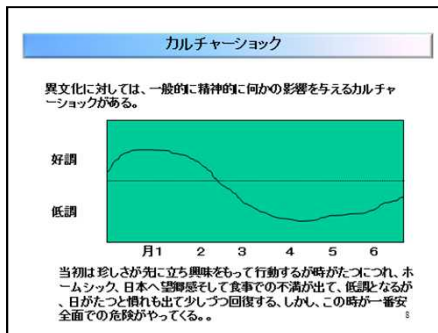
日本	外国
同質社会(察しの文化)	異質社会(確認の文化)
集団主義(相互信頼・依存・対人は価値・親分・子分(暗黙知))	個人主義(自己中心・依存・対人は手段)
平等主義(トップボトム格差小、ボトムアップ)	非平等主義(トップは強力権限、リーダーによるトップダウン)
約束社会(義理・人情そして和・説得)	契約社会(契約により平等・交渉)
長期的関係(終身雇用、移動少ない)	短期的関係(解雇・移動が頻繁)
農耕民族(固定・守り)	狩猟民族(移動・攻撃)
性善説(マクレガのセオリーY)	性悪説(マクレガのセオリーX)

6

4.リスク事象の違い

- リスク事象の違い**
- 国内プロジェクトにはあまり見られないリスク事象の特徴が海外プロジェクトには多く存在する。
- ①カントリーリスク:特定国・地域における政治・経済・社会情勢の変化により企業が損失を被るリスク(政変、金融危機、暴動)
 - ②為替リスク:金融市場逼迫、為替の極端な変動、インフレの加速による差益や差損
 - ③契約リスク:不意なまたは不慣れた契約によるプロジェクト履行上のリスク
 - ④履行リスク:労働事情・労働争議、気候変動、輸出入(税関、輸送、保険)、協力会社能力、現地事情調査不足、物品の保管管理、物品の運送及び各種不可抗力への対応
- 7

5.カルチャーショック



6.コミュニケーション

- コミュニケーション①**
- ①英語に関する能力は必須である。しかし、完全な英語会話でなくても現地同僚との関係保持は十分である。(現地語でもできれば習得)
 - ②交渉や取引またはIT系の技術会話ではコンテキストも理解できる英会話が必要。(この場合は英語に堪能な人材をつけて交渉の場へ)
 - ③日本の文化なども英語で相手に伝えることができたり、現地語でのコミュニケーションができれば現地人と互いの信頼感が得る。
 - ④コミュニケーションには公式なものとして書類作成があるが、英文執筆ができることも必須。(読み、書く、話すの3拍子が必要)
- 9

7.安心・安全への対応

- 安心・安全への対応**
- 日本人が海外で被害に遭う要因
- ①日本及び日本人に関する固定イメージ
 - ・日本人は金を持っている。そして日本人はお人よしで世間知らず
 - ・日本人は弱い
 - ②現地環境不適應症候群
 - ・現地事情を日本と同じとみて甘く見る(認識不足)
 - ・言語力の不足(文法的会話でなくフランクでもよいから話す癖)
 - ・現地に関する強断的イメージ(好き・嫌い)
 - ③自己防衛能力の欠如
 - ・危険認識、自己防衛意識、自己防衛技術の欠如
 - ・肉体的・精神的抵抗力の欠如
- 11

8.ビジネス留意事項

- ビジネス上の留意事項①**
- 現地人と仕事をすすむ上での対応
- ・言葉での伝達だけでなくまず仕事はやらない。(書類に示し残す)
 - ・手順書を作り共通の理解を持つよう心掛ける。(分ったつもりを示すが自己流で全く役に立たない)
 - ・指示すればやっているかと思っは行けない。(進捗チェックはしつこく)
 - ・気が利かないし、言われた事しかやらない。(逆に役割分担を採用時には明確にする)
 - ・“分らない”とは言わない。自分の誤りを簡単に認めない。(プライドが高い)
- 12